

世界の貧困 考えよう

フィリピン・ミンダナオ島で難民となった子供たちを支援している行橋市のカトリック行橋教会(山元真神父)は17日、世界の貧困問題を考える「ミンダナオデー」を開く。コンサートやバザーを予定しており、収益金は島の児童福祉施設「ミンダナオ子ども図書館」に寄付して、施設の拡張工費用に充てる。

行橋の教会 17日バザー



比の児童施設へ寄付

山元神父によると、同島は、宗教の違いや天然資源の利権を巡って、政府軍と反政府軍による紛争が絶えない地域。また、山間部の農村では、極度の貧困で問題を抱えている家庭が多い。施設では、こうした地域の子供らを預かって教育や医療を提供しており、現在小学生と大学生までの約400人が通っているという。

山元神父は2004年、施設の創設者で東京出身の作家松居友さんと、みやこ町での講演会を通じて知り

昨年夏に現地の難民キャンプを訪れ、子供たちと交流する山元神父(黄色のTシャツ姿、カトリック行橋教会提供)

合った。その後は、教会も支援の輪を広げ、施設への寄付や子供たちへの奨学金を募る活動を行っており、07年には教会関係者でつくる「ミンダナオ支援・Mの会」を発足させ、今回のイベントを企画した。

当日は、教会に隣接している行橋カトリック幼稚園でバザーを開き、寄付された品々に加え、子供用の服や靴、野菜、飲み物などを即売する。また、山元神父と交流があり、パレスチナやヨルダンなど世界各国で医療活動を行っている精神科医桑山紀彦さんを招いて、現地の映像を流しながら、自作の曲を披露するコンサートを開催する。

山元神父は「困窮している国々の実情を知ってもらい、私たちに何ができるのかを考えてみませんか」と来場を呼びかけている。問い合わせは教会(0930・22・08005)へ。